

東日本大震災道外被災県緊急支援対策事業

「東日本大震災被災児童北海道招待プログラム
(夏休み北海道リフレッシュプログラム)」

報 告 書

平成24年9月

北翔大学・北翔大学短期大学部

平成24年 北翔大学

「東日本大震災被災児童北海道招待プログラム

(夏休み北海道リフレッシュプログラム)」ご報告

8月13日(月)から21日(火)までの9日間、昨年に引き続き、北翔大学同窓会淑萃会のご支援等により、表記のプログラムを実施し、保護者の方を含めまして24名の方々に参加をいただきました。

失礼ながら書面にて、以下に簡単にご報告させていただきます。

この件に関しまして皆さまから多大なるご支援・ご協力賜ることになり、心より感謝申し上げます。

<第1日：8月13日(月)>

朝、仙台を出て、参加者をお迎えするため、南相馬市原町区小川町のサンライフ南相馬へ向かいました。昨年は、鉄道は亘理駅から原ノ町駅間は不通でしたが、今年は、相馬から原ノ町の間は復旧していました。亘理から相馬の間は相変わらず臨時代行バスで移動しましたが、わずかでも復興しているのは大変嬉しいことでした。また、昨年は、バスの車窓から、道ばたに多数の船が散見されましたが、今年はほとんど片づけられていたことにほっといたしました。

原ノ町駅から集合場所であるサンライフ南相馬までは、路線バスを利用しましたが、1日に3本しか便がなく、驚きました。これは住民の帰還が遅れていることによる利用者不足に起因するもので、そのために一層住民の帰還が遅れる、という悪循環になっているとのことでした。

集合場所では、昨年に引き続き市職員の佐藤光氏が出迎えてくださり、南相馬市の現況に関する資料のご恵贈をいただきました。福島県内各地で復興状況の視察を行っていた引率責任者の林恭裕人間福祉学部長とも落ち合い、参加者をお迎えしました。



参加者は、猛暑の中、全員時間厳守で元気に集合し、互いに久しぶりの再会を喜び合いました。事前に送ってあったお揃いの赤いTシャツを着て、皆元気いっぱい、少し成長した顔で集まってきてくれて、本当に嬉しくほっとしました。出発予定時刻の30分前には見送りのご家族と佐藤氏に別れを告げ、仙台港を目指して出発しました。

仙台フェリーターミナルでは、福島市から参加の11名も元気に合流し、みんなでお弁当の夕食を済ませて「きたかみ」に乗り込みました。

今年の部屋は体育館のような大部屋に大入り満員のすし詰め状態で面食しましたが、ほとんどの子どもは2回目の参加ですから、乗船するや勝手知ったる船内をはつらつと飛び回っていました。三々五々に入浴し消灯。出港直後は海が荒れ気味で心配しましたが、沖に出てからは航海は穏やかで、全員船酔いもなく、ゆっくり休んだようでした。



<第2日：8月14日(火)>

朝は、お腹が空いた人から順番に自由に食事に行きました。到着まではイルカを見物したり、ピアノコンサートを聴いたり、思い思いに過ごしていました。定時に苫小牧港へ到着し、フェリーターミナルには道新基金さんが用意してくれたバスの運転手さんが待っていてくれました。期待通りの涼しさに皆大感激の上陸でした。

大学では、理事長・両学長・同窓会長が迎え、歓迎会が開催されました。



その後、子どもたちは長旅の疲れも見せず、全員元気に最初のプログラムであるミニレクリエーションに参加し、手作りの名札や壁掛けづくりに挑戦しました。



ミニレクリエーションの後は、江別市役所へ市長さんに会いに行きました。市役所では、市長さん初め総務課の方々が、大歓迎してくださいました。市長さんから温かい歓迎のお言葉をお聞きし、子どもたちは、自己紹介や自分の気持ちの発表をしました。保護者の皆さんからは、江別市の支援に対する感謝の言葉が口々に語られました。昨年の帰宅直後には、南相馬市の全児童・生徒宛に江別産のトウキビが届いた逸話も紹介され、厚くお礼の言葉が述べられ、暖かな交流の場となりました。



総務課の方が市のパンフレットが配られ、江別市について色々教えてください、楽しく勉強しました。自分の名前入りのマイ箸や江別小麦ラーメン、文具などの贈り物もいただいて、江別市での滞在が明るくスタートしました。

<第3日：8月15日(水)>

「は～い！いいですか～？！人数確認しますから、席に座っていてくださ～い！」の発声から始まったリフレッシュイベントの第一弾は、ハイジ牧場への牧場体験です。

バスの中ではワクワク度数が上昇し、みんな気持ちを抑えきれない様子です。バスの中でわいわい楽しんでいるうちにあっという間に目的地のハイジ牧場に到着です。

石狩平野を一望できる小高い丘にあるハイジ牧場は、100haの広大な丘陵に約100品種・1000頭羽にもものぼる世界の家畜や動物たちが飼育されています。多くの動物たちと、ふれあうことができるこの牧場は体験型牧場で牛の乳しぼりや、エサやり体験、仔やぎ・仔



ひつじへの哺乳体験、乗馬などもでき、動物が好きな子たちにはもちろん！大人も雄大な土地と無垢な動物たちに開放感と癒しを感じられるおすすめのスポットでした。

楽しくて動きまわりお腹がすいたらいったん休憩タイム！併設されているレストランで昼食のバーベキューです。みんなで食べるバーベキューは「ごはん！おかわり～～！」の声がたくさん聞こえてきました。午後からも自由に牧場体験をしたあとは、長沼温泉で気持ち良く汗を流してバスに乗り込みました。

出発時の元気はどこへ？わいわいどころかスヤスヤと気持ち良さそうです。明日に向けてのエネルギーを充電していたようです。



<第4日：8月16日(木)>

午前中はスポーツ体験です。器械体操の専門の部屋で先生や体操部の学生ボランティアに体操を習いました。飛んだり跳ねたり、トランポリンの体験もできて子どもたちも大満足でした。



午後からは、森林公園に散策に行く予定でしたが、雨が降り出し、急きょ体育館で球技を行うことになりました。

学生が主体となり、まず、子どもたちはドッチボールをすることになりました。学生の投げる速い球に対しても積極的に食らいついている男子もいたり、ボールから身をかわすのが上手な女子もいたりして、本当に楽しそうでした。

また、その他にもバスケットやバレーボール、バドミントンをするなど、子どもたちみ



みんなは自分の好きなスポーツに汗を流していました。とても汗だくになりながらも、思い思いに体を動かし、楽しそうに活動していました。

運動の後は、朝もぎトウキビをゆでてもらって、おやつタイムになりました。美味しさの余り、3本食べた子も!!!遊び足りない子どもはその後もまた体育館に戻って、走り回っていました。

<第5日：8月17日（金）>

この日は、教職員と学生ボランティアと滝野すずらん公園へ行きました。昨日は森林公園散策の予定でしたが雨天のため中止でしたので、自然とふれあう子どもたちの目は生き生きしていました。

大学から約45分バスに揺られ到着。天候は曇りで暑かったが森の中に入ると約20℃と涼しくて快適でした。午前中はアシリベツの滝まで行ったり、溪流では笹舟を作り流したり、釣り堀で釣りを眺めたりと楽しみました。



お楽しみのお昼ご飯は外でジンギスカンを美味しくいただきました。



しかし途中で雨が降り出し午後の予定が危ぶまれましたが

雨宿りが出来る施設がある中心ゾーンへ行くことに。雨の中の移動



でしたが、大きな蓆を傘にしたりして楽しそうでした。中心ゾーンには遊具施設があり子どもたちは大はしゃぎ！男の子は遊びまくり、女の子はスイーツを食べ、満足した様子でした。その間に雨も上がり、みんなで記念撮影もできました。

帰りは汗と雨で濡れた体を温泉で流して帰ってきました。



<第6日：8月18日（土）>

この日は札幌ドームで、日本ハムファイターズー千葉ロッテマリーンズの試合を観戦しました。当日は試合終了後に花火大会も行われ、特に思い出に残る一日になったようです。



昼13時過ぎに本学をバスで出発、渋滞に巻き込まれることなくスムーズにドームに到着しました。試合は、序盤からファイターズが5点をリードする展開も、最後は5－4の1点差で辛くも逃げ切

るという内容。

子どもたちは初めてのドーム観戦に興味津津ながらも5回を過ぎたあたりから黙って座っているのが辛くなってきたようです。学生ボラ





試合終了時にはその子どもたち
タンドに戻っており、全員で
かち合いました。

その後、花火大会まで1時間強あったのですが、子どもたちは大変素直で、学生ボランティアの誘導に従い観戦場所のサッカー場に移動、花火開始を待ちました。

いよいよ花火開始！3000発の花火が晴れ渡る夜空に上がりました。

「たまや〜」と絶叫する子どももいて、全員で動く最後の行事に相応しく子どもたちは大盛り上がりでした。

花火終了後、バスに乗り大学へ戻りました。21時を過ぎての戻りとなったことに加え、野球&花火の興奮からなかなか寝付けなかった子どもも多かったようです。

ンティア達がそのことを察知し、ドーム内のキッズパーク等



に子どもたちを
連れていく臨機
応変で適切な対
応をしたことで
スムーズに流れ
ました。

ちを含め全員ス
勝利の喜びを分



<第7日：8月19日（日）>

この日は1日フリータイムです。レンタカーを使って旭山動物園に出かけた家族の他、教職員と学生ボランティアと定山溪ビューホテルのラグーンでプールを楽しんだグループ、岩見沢にある遊園地の三井グリーンランドに行ったグループ、札幌市内で買い物をしたグループ、札幌中央卸売市場で買い物をしたグループに分かれ行動し、大満足で本学に戻ってきました。



夜はみんなで最後の夜を惜しむかのように花火を楽しみました。



<第8日：8月20日(月)>

この日はいよいよ最終日です。午前中は荷造りで大変な反面、子どもたちは元気いっぱい外で遊んでいました。お昼は豪華なサヨナラパーティでした。大学の外からもこのプログラムに協力してくださった方が大勢来てくださいました。学生ボランティアが夜を徹し作成してくれたスライド等を見ながら思い出話に花を咲かせていました。



終了後、みんなで大きな梱包用紙にペンキで絵を描きました。泣きながら描いている子も見られました。

大勢の教職員や学生ボランティアに見送られて、大学を後にしました。参加者から大きな



模造紙に描いた絵が2枚プレゼントされました。教職員や学生ボランティアは感動し、バスの中では子どもたちはみんなが大泣きをしていました。



思い出とお土産をいっぱい持った帰り道です。

苫小牧港に着くや事件発生！！参加者の一人に携帯電話がないことに気がつきましたが、すぐにバス会社に確認が取れて発見でき、ホット胸をなでおろしました。

19時出航。一路仙台港に向けて15時間の船旅です。満席の2等客室は帰りも又すし詰め状態でしたが、参加者は元気いっぱい船酔いもせずに各々遊びに興じていました。

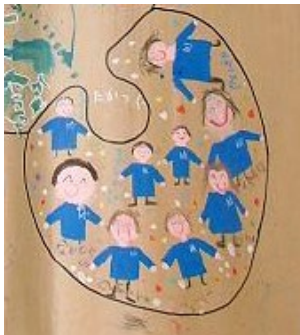
<第9日：8月21日(火)>

定刻の10時に仙台港着岸。ここで11名の福島市からの参加者とお別れをし、13名はバスで南相馬市へ出発。12時に出発地点のサンライフ南相馬に到着。気温34度。

全員元気でご家族の元へお送りすることができました。

<その後>

子どもたちが去った大学には、大きな梱包用紙で作られた幅10メートルもある素晴らしい作品が残されました。



<本件お問い合わせ先>

069-8511

北海道江別市文京台 23 番地

北翔大学エクステンションセンター

棟方 章子

Tel 011-387-3939 Fax011-387-3746

e-mail munakata@hokusho-u.ac.jp